

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第4区分

【発行日】平成25年2月14日(2013.2.14)

【公表番号】特表2009-510256(P2009-510256A)

【公表日】平成21年3月12日(2009.3.12)

【年通号数】公開・登録公報2009-010

【出願番号】特願2008-532465(P2008-532465)

【国際特許分類】

C 2 1 D	1/04	(2006.01)
C 2 1 D	7/04	(2006.01)
C 2 2 F	1/04	(2006.01)
C 2 2 F	1/08	(2006.01)
C 2 3 C	2/26	(2006.01)
C 2 2 F	1/00	(2006.01)

【F I】

C 2 1 D	1/04	
C 2 1 D	7/04	Z
C 2 2 F	1/04	A
C 2 2 F	1/08	A
C 2 3 C	2/26	
C 2 2 F	1/00	6 0 2
C 2 2 F	1/00	6 0 4
C 2 2 F	1/00	6 3 0 A
C 2 2 F	1/00	6 3 0 G
C 2 2 F	1/00	6 4 0 A
C 2 2 F	1/00	6 9 4 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年12月20日(2012.12.20)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 3 4 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 3 4 6】

超音波衝撃は2つの種類の動きを伴う：(1)処理表面からの振動システムの跳ね返りにより引き起こされる弾性回復力のもとでの振動システムの動き、および(2)例えば図34および35で示されるような、圧子に接続された振動システム端の超音波振動。これらの図面で示されるように、基本ツールは少なくとも1つの圧子103、導波管102、水冷ケーシングであってもよいケーシング107を有する磁歪トランスデューサ101、バネ106、およびハンドルを有するツールケース105を含む。磁歪トランスデューサ101、導波管102、圧子103、ツールケーシング105、バネ106およびトランスデューサのケーシング107が、これらに構造的に固定された処理セットアップと共に、振動システム(OS)を形成する。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 3 6 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 3 6 8】

衝撃開始時に、衝撃の速度およびエネルギーが、表面層における材料のメソ構造の完全性 (integrity) を維持する条件、および、飽和レベルを超えないが超音波応力波を処理材料中に伝えるのに十分な、処理表面の塑性変形を生じさせる条件に対応するように、振動システムと処理表面との接近中、該振動システムが該処理表面に接触する前に、超音波振動の振幅および位相が設定され、この時、音響損失は、特定のその後の塑性変形に対し必要なレベルから材料のQ-係数により決定されるレベルまでの範囲内に留まる。